

西田幾多郎博士作品を吟ずる 全国吟詠大会 指定吟題

① 秋家読書

ひと 独り坐せば寥々として『秋気涼し』
とう あん かん ひら かんばんちやう
頭を案じ『巻を披けば感万長』
げきふうきた おそ とうかみだ
隙風来り襲えば『燈火乱れ』
めいげつき き そうどう てら
明月『輝々として草堂を照す』

② 秋郊聞笛

しやうこうふんてき
しやうこう ふうけい ぼうり み
秋郊の風景は『眸裏に満ち』
じやくまく はるか き ぎやくてき こえ
寂寞『遙に聞く玉笛の声』
もつともおもうこんしよう かんがいおほ
左憶今宵『感慨多し』
てきせい こきやう じやう おも あた
笛声は『故郷の情を思うに中る』

③ 春園歩月

しゆんえんほげつ
ちじやうこうこう
地上皓々として『霜踏むの如し』
よるふか きよ せんこう あそ
夜深まりて『清く仙郷に遊ぶに似たり』
よくかなしゆんげつ えん あゆ けい
好哉春月『園を歩むの景』
いちえん どうふう ばんじゆかぐ
一苑『東風に万樹香わし』

④ 秋夜故郷を思う

しゆや こきやう おも
よかせ さつさつ すず
夜風は『颯々として涼し』
めいげつ しも しもこと
明月の『白きこと霜の如し』
げいしゆさんげつ のぞ
仰首『山月を望めば』
がく こきやう おも
額を『ひくくして故郷に思う』

⑤ 無題

むだい
さいげつ りゆうすい こと
歲月『流水の如く』
また しゆんしよくあら
又『春色新たなるに逢う』
かんばい ほんりよ
寒梅『伴侶となす』
てんち いちかんじん
天地『一間人』

⑥ 湘南落日

しやうなんらくじつ
せいざんうみ つら
青山『海に連なつて尽く』
こすいてん せつ なか
湖水『天に接して流る』
らくじつ えんうん そと
落日『煙運の外』
ただ ながく うか み
只『富岳の浮ぶを看る』

⑦ 白砂青松

はくしやせいしよう
すなしろ まつせいせい
砂白く『松青青』
うみあお なみはくはく
海青く『波白々』
こじやうさんか みち
古城『山下の路』
にちらち おうらい
日々『往来となす』

⑧ 愛宕山

あたごやま
あたごやま い ひ ごと
愛宕山『入る日の如くあかあかと』
もや つ のこ いちち
燃し尽くさん残れる命』
(くりかえし)

⑨ 吾死なば

われし
われし こきやう やま うずも
吾死なば『故郷の山に埋れて』
むかしかた とも ゆめ
昔語りし友を夢みむ』
(くりかえし)

⑩ 人は人

ひとひと
ひと ひと われ われなり
人は人『吾は吾也とにかくに』
わ ゆ みち われ ゆ
吾が行く道を吾は行くなり』
(くりかえし)

⑪ 故里の

ふるさと
ふるさと おがわ
故里の『小川にあそぶわらべらの』
あなかことばもなつかしみ聞く』
(くりかえし)